

平成27年度行政事業レビューシート(厚生労働省)

事業名	長期失業者等支援事業			担当部局庁	職業安定局派遣・有期労働対策部		作成責任者	
事業開始年度	平成22年度	事業終了(予定)年度	平成32年度	担当課室	企画課		企画課長 代田 雅彦	
会計区分	一般会計			政策・施策名	IV-3-1 高齢者・障害者・若年者等の雇用の安定・促進を図ること			
根拠法令(具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	-			
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費			
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	離職後1年以上経ち、安定した雇用に至っていない長期失業者に対し、民間職業紹介事業者を活用して、職業紹介を始めとする就職支援から就職後の職場定着指導までを一貫して行い、併せて、同事業の対象者のうち、生活・就職活動費が不足している者に対して、再就職支援期間中の必要な生活資金の貸付を行うことにより、長期失業者に対する再就職支援を充実・強化する。 ※対象者が多く見込まれる大都市圏等(14都道府県労働局)にて実施。							
事業概要(5行程度以内。別添可)	民間職業紹介事業者を活用し、以下の支援を実施する。 ①再就職の可能性を高めるためのカウンセリング、講習等、②求人情報の提供、職業紹介等による就職の実現、③就職後の職場定着のためのサポート、④生活・就職活動費が不足している長期失業者に対して、支援期間中に必要な生活資金を労働金庫において貸付け、⑤住居・生活支援(就職活動困難者) ※本事業は平成22年度をもって廃止しているが、④の貸付事業については、経過措置として、最長10年(平成32年度末まで)の返済期間中に返済不能となった場合の貸付金の損害費用等について信用保証機関へ補助を行う。							
実施方法	補助							
予算額・執行額(単位:百万円)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度要求		
	予算の状況	当初予算	348	255	210	100		
		補正予算	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-		
	計	348	255	210	100	0		
	執行額	160	68	88				
執行率(%)	46%	27%	42%					
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 - 年度
			成果実績	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	
			達成度	%	-	-	-	
定量的な成果目標の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由及び定性的な成果目標	定量的な目標が設定できない理由		定性的な成果目標と24~26年度の達成状況・実績				
	事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標	単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 - 年度
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標			単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込
	返済不能者数 ※本事業は、返済不能となった場合の貸付金の損害費用等について補填をするものであることから、金額ベースで執行見込みを算出しているため、人数ベース(返済不能者数)での見込みは算出していない。	活動実績	人	188	86	118		
		当初見込み	-	-	-	-		
単位当たりコスト	算出根拠			単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込
	※返済不能額は債務者によって違うため執行額による単位当たりコストの算出は困難。			単位当たりコスト	-	-	-	-
平成27・28年度予算内訳(単位:百万円)	費目	27年度当初予算	28年度要求	主な増減理由				
	補助金	100		精査中				
	計	100	0					

事業所管部局による点検・改善					
	項目		評価	評価に関する説明	
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		-	平成22年度に終了した事業の経過措置経費である。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	国の施策による貸付の補填費用であるため、国が実施すべき事業である。	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		-	平成22年度に終了した事業の経過措置経費である。	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		-	安定的な貸付を実施するため、あらかじめ支出先となる信用保証機関を要綱に定めている。	
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-		
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		-		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	補助金の使途は、本事業に必要な経費に限定されている。	
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		○	返済不能となった債権が当初の見込みを下回り、信用保証機関の欠損補填額が予定を下回ったため。	
事業の有効性	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか		-		
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか		-		
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		-		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		-		
関連事業	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		-		
	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-		
	所管府省・部局名	事業番号	事業名		
点検・改善結果	点検結果	本事業は平成22年度をもって廃止したところであるが、返済不能となった貸付金の損害費用等に係る信用保証機関への欠損補填の補助については、返済期限である平成32年度まで経過措置として継続する必要がある。			
	改善の方向性	本事業は既に経過措置事業であり、執行実績等を勘案し、概算要求額を検討する。			
外部有識者の所見					
行政事業レビュー推進チームの所見					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
備考					
関連する過去のレビューシートの事業番号					
平成22年度	-	平成23年度	898	平成24年度	780
平成25年度	558	平成26年度	555		

※平成26年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

厚生労働省  
(88 百万円)



【補助】

A.(一社)日本労働  
者信用基金協会  
(88 百万円)

労働金庫における  
返済不能等の債  
権に対する支払い



参考

労働金庫

貸付制度  
利用者

貸付・返済

資金の流れ  
(資金の受け取  
り先が何を行っ  
ているかについ  
て補足する)  
(単位:百万  
円)

<b>費目・使途</b> (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	A.(一社)日本労働者信用基金協会					
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	補助金	就職安定資金融資(長期失業者)に係る補助	88			
	計		88	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(一社)日本労働者信用基金協会	労働金庫における返済不能等債権に対する支払い	88-		-
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					